

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「障がい児、闘病児のための夏祭り」事業

一般のイベントに参加困難な子どもや家族のために
多彩なエンターテインメントやフードを無料で提供

子どもや家族を対象にしたイベントは数多いが、障がい児や闘病児、その家族が参加できるイベントは極めて少ない。そのような家族を支援するための様々な活動に取り組んでいる福島市の「みらいの光」は、真夏の一日、すべて無料の夏祭りイベントを開催した。会場となった体育館に詰めかけた子どもや家族から、多くの笑顔や喜びの声が寄せられた。

障がい児や闘病児、及びその家族のために開催した夏祭りに前年比4倍の来場者が集う

福島市に所在する「みらいの光」では、18歳未満の障がい児や闘病児を育てる家族が安心して集い、遊び、仕事もできる拠点作りを行っている。福島市では、そのような子どもを預ける施設が少なく、仮に預けることができたとしても、利用時間が限られていたり、自宅から遠いために送迎が困難だったりするケースが多くある。また、障がい児や闘病児が受給できる補助金も少なく、生活に支障をきたしている人も少なくない。そのため当団体では、そのような親子が一緒に通い、子どものそばでドッグフード・お弁当・革細工などの製造、軽作業、動画編集などの有償ボランティアを行いながら、ともに過ごすことができる拠点「みらいパーク」の運営に着手した。

ク」の運営に着手した。

当団体ではPOSCと福島県遊技業協同組合連合会からの助成を活用し、一般的なイベントへの参加が困難な障がい児や闘病児、及びその家族のために、廃校となった小学校の体育館を借りて、前年に引き続き2回目となる夏祭りを2024年8月18日に開催した。会場には車いす用バリアフリートイレやスロープなどを設置したうえで、お笑いライブやフラダンスショー、マジックショー、管楽器演奏会などを行ったほか、たこ焼き、焼きそば、フライドポテト、フランクフルトなどの食事の提供、水ヨーヨー、輪投げ、射的、ストラックアウト、かき氷、綿あめ、バルーンアート作りなどの遊び体験をすべて無料で楽しんでもらった。参加者は子ども135人、大人183人で、前年比4倍となった。



障がい児や闘病児、及びその家族のために開催した夏祭り



会場では参加者が楽しめるアトラクションを実施

助成団体:一般社団法人 みらいの光



助成金をいただいたことで「人を笑顔にする社会貢献」ができました

他機関などから補助金などを頂くことができないなかで、POSCと福島県遊技業協同組合連合会からの助成はとてもありがたく、大切に利用させていただきました。来場者から寄せられた笑顔や喜びの声が、今後の活動の励みとなりました。

一般社団法人 みらいの光
代表理事 加治 浩子さん

https://miraino-hikari.com

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「困難を抱える女性のための一時保護施設の運営」事業

様々な困難を抱える女性が安心、安全に過ごすことができる
短期的住居を運営

2024年4月に施行された「困難女性支援法」にも象徴されるように、新型コロナ禍以降も引き続き物価高などの厳しい環境のもとで、困難を抱える女性が増加している。社会支援制度のはざまで困窮する若者の支援を行ってきたが、対象を拡げ、困難を抱える女性やその同伴児童が安心して過ごすことができる短期的住居の提供を行っている。

4世帯受け入れ可能な短期的住居の提供で
将来に不安を抱えた女性や児童を支援

2020年当時、高校の養護教諭をしていた「アマヤドリ」現代表理事のもとに、新型コロナ禍の影響を受けた卒業生からの相談が急増した。家庭内での虐待や経済的困窮、予期せぬ妊娠、精神疾患など、相談内容は多岐にわたっていた。日本では18歳までは児童福祉法に基づく支援の仕組みがあるが、18歳以上になると支援対象外となるケースが多い。その一方で、この年代の若者のほとんどは自立準備期間にあり、虐待などにより家庭からのサポートを受けられない場合、相談先や居場所を失い、精神的に窮迫する現状がある。こうした既存の社会支援制度の隙間で孤立や困窮する若者の支援を目的に設立したのが「アマヤドリ」である。

活動を続けるなかで、当団体では支援の対象を若年層だけでなく、年齢に関わらず困難を抱える女性とその同伴児童にまで拡げることとし、2023年よりPOSCなどからの助成を活用し、短期的住居の運営を開始した。現在、4世帯の受け入れが可能となっている。2024年度（4月1日～2025年3月31日）の利用者数は20名、同伴児童数12名であった。今後の生活について多くの不安を抱えている利用者に対し、少しでも安心して過ごすことができるような声掛けと支援を心掛けた結果、退居時には「安心して過ごすことができた」などの声を頂いた。入居当初は環境の変化に戸惑っていた同伴児童も、遊びや畑での野菜の収穫作業などを通して、次第にのびのびと過ごすことができるようになった。



住居の運営以外にも相談サポートも実施



短期的住居

助成団体:公益社団法人 アマヤドリ



2年続けて助成していただき、本年も活動を充実させることができました

本助成のおかげで、利用者に安心して施設で過ごしていただくことができました。私たちが取り組む社会課題は、行政や若者支援団体だけではなく、広く社会全体で向き合っていく課題だと考えています。本助成により、本年度も支援を必要としている方に、必要としている支援を実施できたことに心から感謝申し上げます。

公益社団法人 アマヤドリ
代表理事 菊池 操さん

https://www.amayadori-official.net/